

東京江東ロータリークラブ

2023~2024年度 テーマ

世界に希望を生み出そう

ロータリアンの心に火をつけよう Get the Joy of Rotary
RI会長 ゴードン R. マッキナリー 地区ガバナー 栃木 一夫

伝統と革新

~革新しながら伝統を守ろう~
クラブ会長 河西 史郎

今日の卓話

次回例会案内

五大奉仕退任挨拶

三役退任挨拶

E-mail : koto.re@sweet.ocn.ne.jp <http://www.koto-rotary.jp>

例会報告

5/28 会員数 22 名中 13 名
出席率 61.90%
【訂正出席率】
なし



会長・幹事報告

- 16日(木) 東京向島RCにキャラバン隊としてメイキャップに小野が行って参りました。
- 20日(月) 東京城東RCに河西会長が社会福祉フェスティバルのキャラバン隊で、メイキャップに行って参りました。
- 23日(木) 一般社団法人比国育英会バギオ基金第15回臨時評議員会に鈴木会員が参加されました
- 21日(火) 地区会計処理 ガバナー事務所 鈴木会員
- 25.26(土.日) シンガポール国際大会が開催されました。
- 28日(火) 例会【卓話】☆株式会社 藤江 井田紗也子様(いださやこ)☆地区青少年交換委員(臨海西 RC) 島崎久志様(しまざきひさし)
- 6月4日(火) 理事会・被選理事会・例会 【卓話】 5大奉仕委員長挨拶

<委員会報告・その他>

【回覧】東京江戸川ロータリークラブ様より 60周年記念誌、朝日賢太郎事務所様よりお手紙、和光グルメギフトカタログ(夏)

【委員会報告その他】なし

次の例会は、6月18日(火) 夜間となっております。欠席される方は、事務局までお知らせください。



ニコニコボックス



東分区ガバナー補佐・東京東江戸川 RC・岡村利之君：東京江東 RC の皆さん健康を第一にこれからもご活躍される事を心から祈念申し上げます。

地区青少年交換委員・臨海西 RC・島崎久志君：本日青少年交換委員として、例会参加させていただきます。よろしくお願い致します。

河西会長：本日も宜しく申し上げます。

伊藤(海) 幹事：社会福祉フェスティバル頑張りましょう。

菅澤君：来週の会合を休みます。

伊藤(三) 君：いよいよ来週末が社会福祉フェスティバルです。皆さんで協力して喜ばれるフェスティバルになる様頑張りましょう！

鈴木君：島崎さん、井田さん、Speech 楽しみにしています。

大澤君：井田さん、卓話楽しみです。島崎さん、青少年交換について勉強させてください。

小野君：井田様、島崎様、卓話楽しみにしております。

大木君：島崎さん、井田さん、卓話よろしく申し上げます。

堀君：本日もよろしく申し上げます。

熊川君：本日もよろしく申し上げます。

野村君：本日の卓話楽しみにしています。

合計 61,000 円
累計 1,946,500 円

2024年5月のロータリーレート 【1ドル157円】

事務局は午前10時から午後16時まで、囲碁や将棋・談話室として利用できます。掲示板も活用してください

●例会場 / 東京都江東区東陽 6-3-3 ホテルイースト 21 東京内 TEL : 03(5683)5683 ●例会日 / 毎週火曜日 12時30分~13時30分
●事務局 / 東京都江東区東陽 6-3-3 ホテルイースト 21 東京内 TEL : 03(5632)3777 FAX : 03(5632)3737

地区青少年交換委員 (臨海西 RC)

島崎久志氏

株式会社 藤江

井田紗也子氏



本日はこの青少年交換プログラムについてお話をさせていただきます。このプログラムは、ロータリーの青少年奉仕活動の一環として、RIの定める国際青少年交換計画に基づき行われています。ロータリーの歴史の中で最も成果をあげている活動のひとつと言われています。1929年にフ

ランスのニースで始まったとされ、1972年にRIの正式プログラム、74年にRI常設プログラムになりました。現在世界で8,000名以上、日本全体では350名以上がこのプログラムに参加しています。当2580地区においても、すでに50年以上の歴史を持ち、これまでに500人以上の高校生を海外に派遣し、ほぼ同数の高校生を海外から受け入れてきました。このプログラムでは、高校生が1年間を外国のロータリアンのご家庭、もしくは、その関係する方々のご家庭において、家族の一員として過ごし、現地の高校に通学し、ありのままの生活を体験し、相互の国の親善と理解を促進しようとするものです。このプログラムが成功していることの一つには青少年交換の目的を、語学研修など学生個人の能力の向上に置くのではなく、「母国の親善大使」として(私たちは「小さな親善大使」と呼んでいます)、派遣先の国の生活、文化、歴史を学ぶと共に、自国の文化と歴史を広め、交流を深めることに主眼を置いているからです。

これによって、学生本人はもちろんのこと、派遣元、派遣先双方の関係クラブ、関係家族、地域社会にとっても、多くの効果をもたらしています。ロータリーの活動の大きな目的の一つである究極の世界平和を目的としたこのプログラムは、学生を通して世界中で行われる相互理解の積み重ねにより、無理解による衝突を減少させようという試みです。国家、民族、宗教、文化の違いによる反発をなくすためには、決して分かり合えない相手がいることを知り、その中でも相手を尊重し、協調できる人間を育てる事が重要です。受け入れる側である私たちも、ホストクラブ、ホストファミリーとして、来日学生を「預かってあげる」という考えではなく、このような奉仕を通じて相互理解について考え、自らを高める行為に従事していると、ご理解を頂きたいと思えます。

また一方で、対一の交換によって海外へ送り出された日本の高校生が、日本の親善大使として海外で活躍している事も忘れてください。彼らは、皆様が来日学生を受け入れてくださることによって、同様に彼らも海外のロータリアンをはじめ、多くの方々からの奉仕を受け、日本の親善大使として、相互理解の種を、その地にまき続けております。

そして彼らは帰国後に交換学生学友(ローテックスと呼んでいます)として、私たちロータリアンと共に活動をするようになります。

彼らは、帰国してからも奉仕を学び、自らに与えられたこのプログラムの続きを遂行します。ローテックスとして帰国後の3年間、今度は来日学生や後輩の派遣予定学生へ奉仕することにより、その感謝を表現します。同様に、皆様がお世話をした来日学生も、帰国後に自分の国で同じようにプログラムが継続され、そして、さらに卒業してからも彼らが社会人として立派に社会に貢献すること、そして、次世代へ奉仕することにより最終的に目的が成就されるものと考えております。

このプログラムを推進していくにあたっては、常に順調なことばかりとは限りません。来日学生は、年齢的にも接し方が一番難しい時期・年頃であり、まして今までは全く環境の異なった外国にたった一人で行って来て、異なる風習の中で生活するわけですから、ホストクラブの皆様のご愛護と、受け入れてくださるホストファミリーの細心の注意、適切な指導と保護が必要です。

もし問題が生じた時は、それが大きくならないうちに、早期に解決することが大切です。そのために地区委員会では、様々な支援制度を設けて、青少年交換プログラムの成果を高めるよう努めております。

【プログラムの流れ】

派遣生の選抜は4月に各学校に公募の案内を出し、6月に選考試験を実施し、毎年10名前後の合格者を決めます。

選考された学生は、まずは1年間かけて「派遣予定学生」として留学準備のための様々なプログラムに参加します。同時に、その年に来日している外国人留学生たちとも1年間交流をします。ちなみに、派遣国については本人の希望は受け入れていません。あくまでも、委員会が本人の適性を見ながら決定します。

1年間の準備期間を経て、2年目は実際に派遣先への1年間の海外留学をします。ここで、みんな大きく成長して帰ってきます。

帰国後は3年間ローテックスとして来日学生や後輩の派遣予定学生のお世話をします。受験などで空白が空く子もいますが、かならず、この5年間のプログラムに参加することが選考の条件になります。

本日は2月下旬に行われた第4回RYLAセミナーに参加しての感想や学んだ事をお話させていただきます。ちょうど1年前にも東京江東ロータリークラブ様で第3回RYLAセミナーの卓話をさせていただきました。

この日をきっかけに小野さんとのご縁が生まれ、お声をかけていただき、第4回の参加は実現しました。前は受講生として参加でしたが、今回は運営側として参加した中での、お話をさせていただければと思っています。よろしくお願ひいたします。

今年度のRYLAは2月22日から25日の3泊4日で行われました。初めての東京開催となり、代々木にある国立オリンピック青少年総合センターで開催されました。東京と沖縄から16名の受講生が集まり、私たち7名の委員会メンバーとともに様々なプログラムを実施しました。また様々な場で活躍されている4名の講師をお招きし、貴重なお話を伺うことができました。今年度のRYLAのテーマは、「Light Up Our Heart」でした。近年、様々な場面で耳にするSDGsを達成していくために、世界諸国で起きている問題に目を向けながら、解決策を考えました。その中で受講生の中に秘めているリーダーシップの心に火を灯していきたいと言う目的がありました。私は今回、カウンセラーというRYLAの中でも花形と呼ばれる役目をやらせていただきました。最初聞いた時は、とても驚いたと同時に不安もありました。私が参加した時のカウンセラーの方のように受講生を支えたり声をかけたりすることに自信があまりなかったからです。そこで、自分がいた班のカウンセラーをしてくださった方に実際にお会いし、相談をさせていただきました。相談の中で特に強くお話されていたのが、とにかく受講生を見守ることでした。RYLAは受講生が主体的に動いたり、プログラムに取り組むことを最も大切にしています。そのためカウンセラーが発言ばかりしてしまうと、その内容に流れてしまう恐れがあるため、あまり発言や助言は控えたほうが良いと言うアドバイスをいただきました。私も「見守る」と言う姿勢を大事にしなが、受講生が主体的にセミナーを取り組めるような雰囲気を作っていくと思いました。相談の最後に、「RYLAカウンセラー実践の手引き」と言う冊子を下さいました。こちらにはカウンセラーの基本的な態度や行動、動かないでいただいたことが具体的にまとめられているものでした。その中で、私が実際に当日生かすことができた『カウンセラーの8原則』について体験談とともにお話します。

8原則の中に全員発言の機会を提供する、という項目があります。私が担当した班は男性2名、女性4名の6人班で大学生が多いグループでした。その中の女性1名は、人前で発表したり質問したりすることを遠慮している様子でした。私はぜひ班員全員に1回でも発表してほしいと思っていたので、ある講義の後の発表の際にぜひ発表してほしいと彼女に誘いの声をかけてみました。彼女は最初少し嫌がっていましたが、何とか挑戦してくれました。しかし少し言葉が詰まってしまう、発表が終わった後、「できればもう発表はやりたくない」と話してきました。私は誘ったことが間違っていたのか、頭の中で悩んでしまいました。私も人前で話す事は得意ではなかったですし、彼女の気持ちはよくわかっていました。このことを小野さんをはじめ、ロータリアンの方に相談したところ、誘ったことは間違いじゃないし、今後やって良かったなどつながる日が来るから大丈夫だと声をかけていただきました。その後最終日のフォーラム発表では、今までよりも彼女は落ち着いて発表することができていたと思います。少しでも自信につながったり、何か小さなことにつながってくれたら嬉しいです。

カウンセラーという役目を通じて感じた事は、人のチャレンジを親身になって支えられる人、背中を押して寄り添える人になりたいと言うことです。現在は小学校で栄養士をしています。子どもは苦手なことは避けて通ろうとがちです。給食であれば、食わず嫌いなものが挙げられます。しかしひとりで食べられたり、頑張って完食できるようになったと自慢げに見せてくる子どもの姿を見ると、やりがいを感じます。一人ひとりの食べ具合は様々ですが、1人でも給食が好きになってくれる子供が増えるように、カウンセラーのように寄り添える栄養士になりたいと、今回の経験を通して感じました。

最後に、今回のRYLA開催にあたり、東京江東ロータリークラブを始めとする、多くのロータリークラブ、ロータリアンの皆様からご支援をいただきました。誠にありがとうございます。これからも皆様と様々な形でつながりを持ってたろと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。本日はご清聴ありがとうございました。

